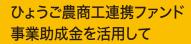


プラスワンケアサポート株

川西市





- ●凝固剤不使用のソフト食が完成した
- ●フードプロセッサーを増備できた
- ●冷凍介護食事業が軌道に乗った



助成金で試作用の食材を購入し 凝固剤不使用の介護食の大量生産に成功

冷凍介護食を事業化

川西市に拠点を置く同社は1989年、訪問介護と居宅 介護支援で創業しました。高齢化に歩調を合わせて、住 宅改修や福祉用具のレンタル・販売、ホームヘルパーの 養成など事業を多角化。2019年には市内4カ所にある系 列の特別養護老人ホーム向けに、冷凍介護食の製造・販 売を始めました。

同社が手がける介護食は「ソフト食」と呼ばれるも ので、通常の料理と同じように調理した後、フードプロ セッサーでペースト状にし、凝固剤で成形します。歯茎 や舌で押しつぶせるほど軟らかく、嚥下しやすいのが特 長です。「人材不足が進み、厨房で一から料理を作るのが 難しくなる時代が来ることを見越してスタートしまし た」と事業の立ち上げから携わってきた経営計画推進本 部の小田智輝課長は話します。

13年ごろから構想はあったものの、当時の冷凍機では 完全凍結する前に食感や味に変化が生じ、実現には至り ませんでした。18年に従来の10倍の速さで凍結できる という機械が開発されたことで、ようやく事業化にこぎ 着けました。

より安心できるソフト食の開発へ

事業開始から2年が過ぎた2021年、同社は凝固剤の代 わりに米粉と卵白をつなぎに使ったソフト食の開発に着 手します。「凝固剤が体に悪いわけではありませんが、食 品表示にカタカナの添加物名が並ぶよりも、なじみのある 食材の方が安心してもらえると考えました」と小田課長。

数食分を試作し米粉と卵白が使えることは分かりまし たが、本採用には一度に数百食分を同じクオリティーで 製造可能なことを実証しなければなりません。試作用の 食材を大量に購入するための資金調達に頭を悩ませてい たところ同年8月、付き合いのある経営アドバイザーか らひょうご産業活性化センターの農商工連携ファンド事 業助成金を教えてもらいました。「センターのスタッフの 説明が分かりやすく、スムーズに申請手続きに移れまし た。旧知の加東市の農家等の協力で食材を仕入れたほか、 フードプロセッサーの購入にも助成金を充てました」

11月、大量生産に向けた試作がスタート。調味料の量 や食材の選定など微調整を繰り返しながら、翌22年3 月、凝固剤不使用の冷凍ソフト食が完成しました。

現在、猪名川町に新工場を建設中で、来年3月の完成後

制度利用の流れ

2021年8月

当センターに 助成金を申請

11月

事業計画が 採択される

11月~22年3月

助成事業を実施

4月(1年目)

実績報告→助成 金受給(7月)

23年4月(2年目)

実績報告→助成 金受給(5月)



はホテルのレストランをターゲットに高価格帯の冷凍食 品を製造する予定です。「助成金のおかげで冷凍介護食 事業が成長したことにより、次のステージに踏み出せま した」と小田課長。今後も社会のニーズに応える事業を 展開していきます。

プラスワンケアサポート(株)

川西市栄町25-1 アステ川西5階 1072-757-1234

- ●代表取締役/古賀正靖
- ●事業内容/居宅介護支援事業、訪問介護事業など Hhttps://plusone-group.co.jp/caresp

ひょうご農商工連携 ファンド事業助成金

県内の中小企業者等と農林漁業者の連携体に よる新しい商品・サービスの開発を支援します。

【対 象 者】県内の中小企業者等と農林漁業者の連携体 【対象事業】県内の農林漁業資源を活用した新商品の開 発、新サービスの提供のために取り組む事業

【対象経費】研究開発費、販路開拓費 【助成額】上限400万円(対象経費の3分の2以内)

利用メリット

- ●中小企業者と農林漁業者の互いの強みを生かした商 品開発が可能になり、新たなビジネスチャンスを創出
- 助成支援を受けた商品については、兵庫県とひょうご 産業活性化センターがPRを支援します

問ひょうご産業活性化センター新事業課 **1**078-977-9072



制度の詳細についてはホームページをご覧ください

